

令和8年度 努力点推進計画

笹島中学校

研究主題

自ら学び 考えを表現する ささしまっ子の育成
—教科領域における探究活動を通して—

1 基本方針

自ら学び、考えを表現する生徒を育てたい。現代社会は複雑化・高度化・予測困難になっており、生徒たちは将来正解があらかじめ用意されていない状況に直面することが予想される。そのようなときに問題を見だし、解決する「課題解決能力」が必要である。

そこで、教科・領域における学習活動で学んだことを手掛かりに、すぐには答えのない問いについて考え、試したり比べたりしながら、自分なりの考えを表現している「探究活動」に重点をおいた実践を行う。こうした実践を通して、生徒一人ひとりが、正解が一つに定まらない課題に対しても、考えることをやめず、学んだことを生かしながら自分の考えを表現していける力を育てていく。

2 推進計画

(1) 推進方法

ア 努力点推進委員会

- 推進及び計画については、努力点推進委員会で話し合い、決定する。

イ 全体部会

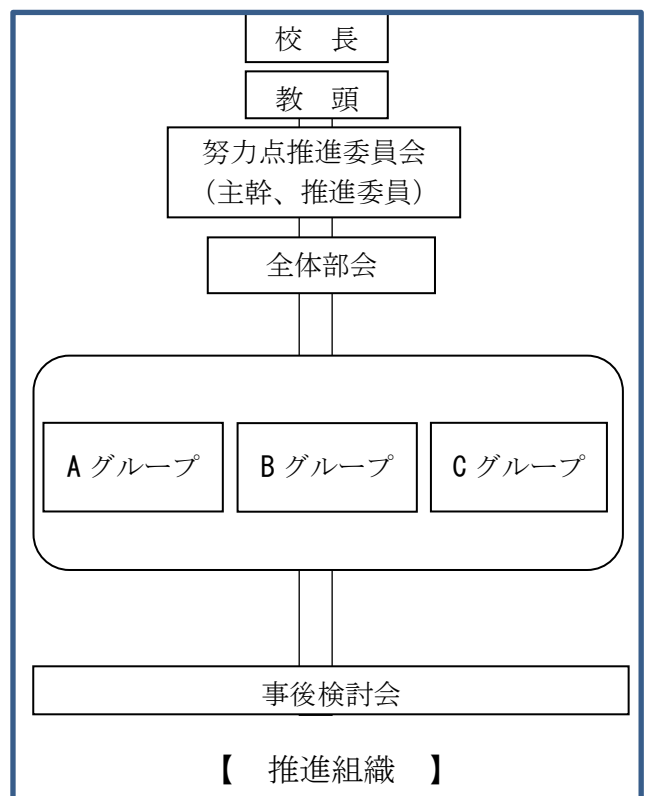
- 推進及び計画について共通理解を図る場を設け、各部会の実践計画を具体化し、実践検討する。
- 2月に最終報告会を行う。その際、成果をできるだけ客観的に検証できるよう工夫し、課題を確認するとともに、改善点についても検討する。

ウ 部会について

- 実践者は、3日前までに同じ部会の職員に指導案を配付し、PDF形式で所定のフォルダに入れ、他の部会でも参観をする職員は必要に応じて各自印刷をする。

※ファイル名を「0401_①0845 中1 理科」のように実施日、時限、開始時間、学年、教科がわかるようにする。

- 部会内で1実践以上の観察を行う。
- 1実践以上の実践記録を最終報告会までに係に提出し、実践の情報共有ができるようにする。(個人)



エ 事後検討会について

- 公開授業が行われた後、各部会で、事後検討会を行う。

(2) 研究の進め方

- ア アンケート等による子どもの実態調査（調査方法）の検討。
イ 公開授業の参観者は、それぞれの部会に属している職員とするが、可能な範囲で他の部会の授業も参観する。
ウ 最終報告会を踏まえ、研究成果と改善点を確かなものにし、指導法の確立をめざす。

(3) 実践研究日程予定表

1 学期	4月13日(月)	全体会 部会	8年度推進計画 部会での研究計画の作成 (実践の時期、教科など) (一人1実践)
	夏季休業中		指導案等の検討 文献研究 先進校への視察
3 学期	2月25日(木)	全体会	最終報告会(計画書に実践の内容を加える)
	3月下旬	推進委員会	次年度の検討

※ 各職員の実践の場所・おおよその時期については、春の全体会後に決定し、努力点担当に伝える。努力点担当は、公開授業の日時を掲示するなどして職員間で日程を共有できるようにする。

担当へ伝える内容例：〇〇先生は9月下旬に実践予定

(4) 指導案および実践記録について

ア 指導案

下の様式で略案を用意し、実践後に成果と課題を書き加えて報告書とする。

第〇学年〇組 〇〇科 学習指導案		
令和〇年〇月〇日 第〇時限 指導者 〇〇 〇〇		
1	単元	
2	本時の指導	
(1)	目標	
(2)	準備	
(3)	指導過程	
	時間	学習活動
		指導上の留意点
4	本時の成果と課題	
○		
●		

イ 実践記録

最終報告会で実践事例が共有できるようにする。

- ・実践の概要（単元や手立て） ・成果と課題